

### 3.8 放射線の量

#### 1) 調査項目

工事・存在（造成等の工事及び造成地の存在）による放射線の量については、空間放射線量が低いレベルで推移していることから、放射性物質の拡散・流出はないと考えられるが、今後ホットスポットが確認される可能性も排除できないこと、調整池からの排水による影響は不明であることから、事後調査を実施し環境影響の状況を確認した。

#### ・放射能

環境影響評価において、放射性物質による環境の汚染の状況の把握については、放射線の量（空間線量率等、単位：シーベルト）で行うことを基本としているが、宮城県環境影響評価技術審査会のご意見も踏まえ、土壌等に含まれる放射能（単位：ベクレル）を把握する。

#### 2) 調査方法

改変範囲の土壌を採取し、放射能の分析を行った。また、河川の水質調査の際に河川水を採取し分析を行った。（河川水の分析結果については、「3.3 水質」を参照。）

#### 3) 調査地域・地点

調査地域・地点を表 3.8-1 及び図 3.8-1 に示す。

土壌試料採取箇所は、施工が行われていない 6 工区を除いた 1～9 工区で、各工区 1 箇所ずつ選定した。

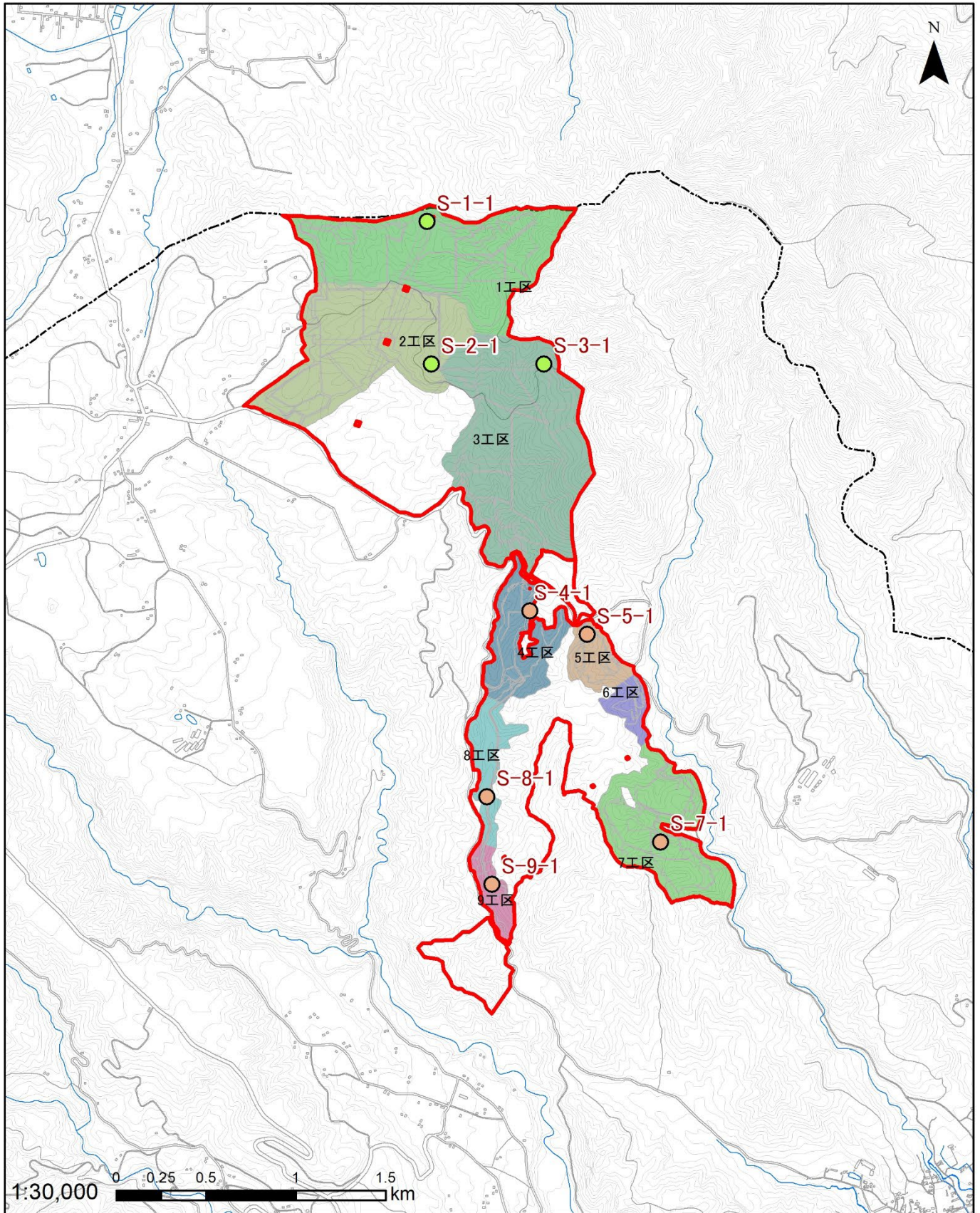
試料採取地点の状況を、図 3.8-2 に示す。

#### 4) 調査期間・頻度

土壌試料採取実施は、表 3.8-1 に示す。

表 3.8-1 調査実施地点・日時

実施日時	工区	地点番号
2021 年 11 月 10 日	1	S-1-1
	2	S-2-1
	3	S-3-1
2022 年 11 月 6 日	4	S-4-1
	5	S-5-1
	7	S-7-1
	8	S-8-1
	9	S-9-1



凡例



放射線調査地点    2021/11/10    2022/11/06

図 3.8-1 放射能調査地点 (土壌)





図 3.8-2 試料採取地点の状況

## 5) 調査結果

採取した土壌の放射能分析結果を、表 3.8-2 に示す。

これによると、事業実施区域の土壌中の放射能（Cs-137）は 49～280Bq/kg である。これは、農林水産省通知（平成 24 年一部改正）による“肥料・土壌改良資材・培土中の放射性セシウム の暫定許容値（400 Bq/kg）”と比較すると低い値である。

また降雨時の河川水の放射能（「3.3 水質」を参照）は、1.0Bq/L 未満であり、域外への流出も見られない。

放射能については、各工区の工事進捗状況に応じ引き続き測定を行う。

表 3.8-2 放射能分析結果

実施日時	工区	地点番号	I-131 (Bq/kg)	Cs-134 (Bq/kg)	Cs-137 (Bq/kg)
2021 年 11 月 10 日	1	S-1-1	<20	<20	180
	2	S-2-1	<20	<20	180
	3	S-3-1	<20	<20	280
2022 年 11 月 6 日	4	S-4-1	<20	<20	49
	5	S-5-1	<20	<20	75
	7	S-7-1	<20	<20	170
	8	S-8-1	<20	<20	270
	9	S-9-1	<20	<20	220